文部科学省 地(知)の拠点 | ふるさといわて創造プロジェクト

ふるさといわて創造レター

FURUSATO IWATE 5210 LETTER

2017. 09 第 8 号

［発行者］ふるさといわて創造協議会事務局　岩手大学COC推進室　Tel. 019-621-6053 E-mail cocplus@iwate-u.ac.jp

ふるさといわて創造協議会全体会議を開催しました

ふるさといわて創造協議会（会長：岩渕明岩手大学長）の全体会議が７月 18 日、自治体、産業界、高等教育機関などの関係者約 80 人が出席し岩手大学復興祈念銀河ホールで開催されました。岩渕会長の挨拶のあと、小野寺 COC+ 推進コーディネーターより昨年度事業実績及び今年度事業計画について説明が行われ、了承されました。また、新規事業協働機関として葛巻町及び紫波町の参加が承認されるとともに、任期満了に伴う役員の改選が行われ、現役員が再任されました。

全体会議の後には、「女性が輝くいわてを目指して」と題したシンポジウムが開催されました。シンポジウムはキャリアコンサルタント・講演家の大久保名美氏による基調講演「自分自身の思い込みを超えるいわての働き方改革」、岩手大学男女共同参画推進室 堀久美准教授による事例紹介、そして岩手大学 COC 推進室 船場ひさお特任准教授のコーディネートのもと、大久保氏、県内企業で働く女性３名並びに岩手県立大学の学生就職支援担当者によるパネル・ディスカッションと続きました。自身の体験に基づく女性の視点ならではの分析やリアルな意見が交わされ、女性の地域定着について考える貴重な機会となりました。

平成 27 年度から始まったふるさといわて創造プロジェクトは今年度が事業中間年となります。今年度は若者が地域を知る機会の創出に力点を置き、「様々ないわてを知る」をキーワードとして、若者の地域定着に向け、県内学生と地元企業、自治体、NPO 等が一堂に会する交流イベント「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2017」の開催等の取り組みを中心に、産学官が一体となり、より一層の連携を深めながらプロジェクトを推進していきます。

参加高等教育機関の平成 28 年度県内就職率について

参加高等教育機関の平成 28 年度県内就職率は実績値 45％と目標値 49％に対して４ポイント下回る結果となり、昨年度実績からは横ばいの状況となりました。

その要因として、いくつかのことが考えられます。まず一つに県外企業に比べて県内企業の採用活動の時期が遅いことが挙げられます。全国的な人材不足が続く中、県外企業は地方に人材を求め、３月から活発な採用活動を展開しています。その一方で、県内企業の多くで採用活動が本格化するのはハローワークが求人公開を開始する６月からとなっており、人材確保のタイミングを逸している状況にあります。また、岩手労働局が今年度実施した若年者雇用動向調査によると、県内学生の９割が県内に本社を持つ企業を５社以下しか知らず、そのうち４割の学生にいたっては１社も知らない状況にあるなど、学生の県内企業に対する認知度が十分ではないことも理由の一つと言えます。

本プロジェクトでは学生の県内就職に対する認識を深めてもらうため、まずは就職への意識がまだそれほど高くない低年次の段階より様々な角度から働きかけを行い、地域の魅力を伝えていくことが重要と考えています。今年度は学生と企業、行政、NPO 等との交流を通じて地域を知る「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2017」を開催するほか、これまで行ってきたインターンシップや企業見学会、バスツアー等の多様な取り組みを引き続き実施し、学生に地域の魅力を知ってもらう機会を幅広く提供し、さらなる県内就職率の向上を目指していきます。

	平成27年度 実績値	平成28年度 目標値	平成28年度 実績値
参加高等教育機関 県内就職率	45%	49%	45%

参加高等教育機関の取り組み状況　～一関工業高等専門学校～

一関工業高等専門学校は、県南の工学系高等教育機関として、早期技術者教育を行う５年間の準学士課程や、さらにその上の専門性や複合性を深めるための２年間の専攻科課程（学士課程）を通して、グローバル社会で活躍できる感性豊かで創造的な実践的技術者の育成に努めています。

社会人を招いてのフォーラムの開催

平成 28 年度より５月頃、４年生を対象に社会人を招いてフォーラムを開催しています。地域で活躍している卒業生等の社会人をパネリストに招き、この地域で働くことについてディスカッションしていただきます。社会人から働くことについて直接話を聞くことができ、学生は就職についてイメージを持つことができました。

「地域創造学」の開設

平成 28 年度に新規科目「地域創造学」（第４学年）を立ち上げました。この授業では、一関市・地元企業から提供していただいた課題について取り組むほか、地域で働くことについて議論を深めます。学生が若手社員にインタビューを行い、この様子をビデオ撮影します。撮影後は動画の編集作業を行い、授業を履修していない学生でも閲覧できるようアーカイブ化を行います。学生からは「仕事に対するイメージをもつことができた」「地域企業への就職を考えたい」といった声が聞かれました。

「パテコンサミット in 一関」の開催

平成 27 年度より、知的財産教育とファシリテーションを広めるため、発明・知的財産教育に興味・関心のある地域企業、大学・高等専門学校の教員・学生、発明クラブ関係者を対象に「パテコンサミット in 一関」を開催しています。パテントコンテストに対する各校の取り組み状況等に関する情報交換のほか、参加者でファシリテーション等を行っています。

第２期いわてキボウスター開拓塾最終報告会を開催しました

８月 10 日、いわてキボウスター開拓塾の最終報告会が岩手大学復興祈念銀河ホールで開催されました。今期、参加学生はマーケティングやファイナンスなどのビジネス知識を学びつつ、観光、農業、ものづくりなど５つの分野に分かれてゼミチームを構成し、ゼミ長である地域リーダーからアドバイスを受けながら各々がビジネスプランの作成に取り組みました。当日は５チームの中から優れた 10 テーマが選抜され、学生は約 100 人の参加者を前に、４月から試行錯誤しながら練り上げたプランの成果発表に臨みました。会場内には成果物を展示したブースも設けられ、成果発表の後、参加者への個別説明や質疑応答が行われました。

地域リーダーとの共創活動が中心だった第１期と異なり、ビジネスプランを自分一人で作り上げる今期のプログラムは大変なことも多かった半面、ゼロから新たなものを創造する過程を学ぶ価値ある体験になったことと思います。この活動で得た経験を糧に、第２期塾生が今後も様々な可能性に挑戦し飛躍することを期待しています。

参加学生の声

今期の取り組みを振り返って

安田　緑　岩手県立大学盛岡短期大学部2年

キボスタ２期では、地域リーダーから直接知識を得られたり自分で事業プランを立てたり、普通の授業では経験できない内容だったので成長できると思い参加しました。

岩手には留学生やIターンされた方、学生などがいて多様性があると感じていたので、興味のある空間づくりやデザインと合わせて楽しく交流できる機会を作ろうとプランを立てました。特に、何を解決したいのか、自分にできることは何かを何度も考えました。

短大２年のため授業や就活があり、また個人的にインターンシップもあり、キボスタに時間を割くことは大変でした。しかし時間を言い訳にしたくない、途中で投げ出すことが一番格好悪いという気持ちがあり、いろいろな方の支えもあって続けることができました。上手く消化できず整理に時間がかかりましたが、無力であることを知ったり大事にしたいものがわかったり本当に濃い半年間でした。これからは、ここで学んだことを糧に『行動』します。ありがとうございました。

「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2017」を開催します

「いわてで働き、輝くために－いわての魅力再発見－」をテーマに11月19日㈰、岩手大学第一体育館をメイン会場として開催される交流イベント「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2017」。岩手県内企業、自治体、NPO等によるブース出展が行われ、学生が各団体の展示発表を通じてその社会的存在や特徴的な取り組みに触れる中で、社会の在りようを学び、自らの生き方・働き方を主体的に考えるとともに、各団体との交流を通じてそれぞれの視点から地域の良さを発見し、県内就職の機運を高めていくきっかけになることを目指しています。

開催に向け、８月８日には第１回実行委員会がアイーナ いわて情報交流センターで開催され、実行委員長に岩手経済同友会 高橋真裕代表幹事、副委員長に岩手大学 八代仁 COC 推進室長を選任し、出展団体や全体スケジュール等について検討を行いました。

また、学生主役型を志向する本イベントでは、学生による実行委員会が組織され、イベント名称やロゴマークについて学生自らが発案を行うなど、広報活動を中心に学生主体の企画も進んでいます。出展を表明した団体に対して学生が事前に展示内容等について取材を行い、来場者に配布する冊子に取りまとめるなど、学生の目線を最大限に活かしたPR 活動を展開していきます。